

リハビリテーション部 部長 理学療法士 池田 真琴 (H18年卒)

当クリニックは、膝を専門に治療を行っています。そのため、“膝”に関してはほとんど深く勉強し、知識を自分のものにしていかなければなりません。

「広川から最新の医療を提供できるように」という理念のもと、常に情報をアップデートし、日々の患者さんと向き合うことが求められます。同じ疾患であっても患者さんの数だけ経過はあり、求めるものは異なってきます。多くの患者さんと接し、診ていくことが自身の糧となるように思います。

誰よりも多く患者を診たい、という欲があり、“やるんだ”という自主性を持っている方に入職して頂きたいと思います。日々の意欲、頑張りが認められれば、様々な経験をさせて頂くチャンスがあります。私自身、海外研修で韓国、ニューヨークなどの施設見学、大学病院の施設・手術見学、国内外の学会などへ参加させて頂きました。外の世界を見ることで見えてくるものが数多くあり、自身の刺激となります。このようなチャンスを自分の物にするかは、自分次第です。

こういう理学療法士になりたい！と誰しも夢は描きます。

それを実現させるために必要なこと、生き残っていくために必要なことは、誰にも負けないくらいの日々の努力です。しかし、自分の好きなことだけでは夢にたどり着けません。苦手な分野も取り組むことで自身が成長でき次のステージに進めると思います。目先のことだけでなく、将来のビジョンを思い描き、『今』やらなければならないこと、犠牲にすべきこと・・・考えて行動していく必要があります。

プロフェッショナルな理学療法士になりたい方、当クリニックと一緒に仕事をしませんか？

リハビリテーション部 副部長 理学療法士 渡辺 裕介 (H19年卒)

こんにちは。あなたは将来どんな理学療法士を目指していますか？当院は、整形外科疾患の中でもスポーツ、膝においてより専門性が高く、特化した理学療法士を目指しています。たくさんの疾患や部位を均等に見て行く事も大切なことだと思いますが、将来、何か武器がほしいと思ったとき、どこか一つでも得意な分野があれば胸を張って治療出来ると思いますし、理学療法士だけでなく医師とも近いレベルでディスカッションが出来ます。スポーツだけ、膝だけと思われがちですが、その深さをどれくらい考えたことがありますか？また、ひとつの分野の深さを知ったら、以外にも他の深さも理解しやすいものです。当院は、スポーツ、膝疾患を診て行くうえで必要なハードが揃っています。私自身も、もっともっと深く尖った分野で治療出来るように精進していかなければ、と

思っています。あなたも一つの道を極めていけるように共に精進しませんか？

チーフトレーナー 健康運動指導士 野中 岳

当院は、19床のクリニックです。ここでは、ただリハビリテーション業務を行うだけではありません。職務間でのボーダーレスを提唱し、リハビリテーション業務のみならず病棟業務なども行なっております。それは、専門外の内容ではありますが、経験することにより、より患者さんと接するスキルを身に付ける事ができます。もちろん、本業であるリハビリテーション業務は常にスキルを上げ続けなければなりません。医療は日々進歩しています。当院は「広川でも世界トップレベルの治療を提供すること」を理念に業務を行っており、実現するためには日々の業務を送るだけでは到底実現する事は出来ません。その為にも業務後の勉強は欠かすことはできず、その時間は日付を超えることも少なくありません。プライベートを潰してまで、、、と感じかもしれませんが、自分の今後の成長のためと考えると、今しかできない事だと考えています。しかしながら、このように努力を続けていると競泳日本代表選手やプロスポーツ選手のコンディショニングなど、他では経験する事のできない貴重な経験させて頂く事が出来ました。その他にも当院では様々なスポーツ活動も積極的に行なっています。これはスポーツクリニックで勤務する以上、自分の専門種目だけでは話にならないため、業務後にバドミントンを行ったり、私は南アフリカまで自転車レースにまで参加させて頂きました。経験することにより、より説得力のある話が出来ます。正直、当院は生半可な気持ちでは、やっていけません。しかしながら、努力を怠らなければチャンスは巡ってきます。本気で自分のスキルを身に付けたいと思う方のみ歓迎します。

理学療法士 矢頭 透 (H26年卒業)

当院での理学療法士としての仕事はリハビリテーション以外もあります。患者さんの手術前後に行うインフォームドコンセントがあります。手術前にしっかり説明を行うことで、患者さんにもどのような手術を行うか知って頂く必要があるからです。勉強会では、全スタッフ参加の勉強会や学会発表の予行練習などがあり、学会発表前になると、帰宅するのは翌日になることは多々あります。正直プライベートはありません。また、院内でのスポーツ活動も盛んに行われており、バドミントンやフルマラソンなどがあります。私はこれまで、フルマラソンは4回、ハーフマラソン1回経験させて頂きました。このようなスポーツ活動の参加は、スポーツクリニックに勤務している限り、知っておく知

識として非常に重要なことだと考えています。私自身、フルマラソンに参加するとは思いませんでした。完走した時に達成感は何とも言えません。

現在、理学療法士の国家試験は毎年1万人前後の合格する人がいます。喜ばしい反面、ライバルも多く存在し、この厳しい医療情勢を勝ち抜いていかないといけません。それは、新人の頃からしっかりと勉強し、理学療法士として将来何が必要なのか考え、行動していくことが大切だと思っています。入職した際には、共にプロフェッショナルな理学療法士を目指し、頑張ってください。

理学療法士 松本 丞司 (H27年卒業)

当院での理学療法士としての業務は多岐にわたります。膝を専門としておりますので、日頃の自己研鑽はもちろんの事、定期的な勉強会や研究発表の準備などで日付が変わる事もしばしばです。おかげさまで私自身も地区の症例発表や地方学会発表を経験させて頂きましたが、準備や研鑽を行う事で知らないうちにスキルアップできているなど感じる事ができ、何よりもやりきった後の充実感は最高です。また当院は19床のクリニックで、医師や他部署と密に連携をとっていく事は必須であります。リハビリテーション業務以外にも病棟業務もこなしていかなければなりません。専門以外ですが、他部署を経験する事によって院内の流れを細かく認識でき、患者さんとのコミュニケーションもとることができます。業務以外でもスポーツ活動も盛んです。毎週行っているバドミントンやマラソン部、モータースポーツ部、夏の海部や冬はスキー研修など目白押しです。以上の事を聞いてみて、大変だな…と感じるかもしれませんが、今後の成長のために今しかできない事だと、私自身考えております。実際に多忙な日常生活になります。しかし、その中で1つ1つ目標や壁を越えていくからこそ、達成感や充実感は何物にも変えられないものを感じる事ができます。きついばかりではありません。実際に各界のプロの方たちとお会いする貴重な経験をつむ事もできます。以上の事を踏まえて、当院で理学療法士をやってみようと考えている方、大歓迎です！お待ちしております！

理学療法士 下川 聖哉 (H28年卒業)

今年で入職して3年目になります。当院は膝関節障害やスポーツ障害を中心に診療や手術、リハビリテーションを行っております。現在、理学療法士が急増していく中、整形外科、スポーツ分野で突出したいと思われる方、一緒に働いてみませんか？当院の理学療法士の仕事はリハビリテーション業務以外にも色々あります。私自身、理学療法士と

してまだまだ経験は浅いですが、院内研究、英語論文朗読会、高校サッカー帯同、学会発表などの機会を頂きました。また、理学療法以外でもフルマラソン、スキー、バドミントン、マリンスポーツなど様々な経験をさせて頂きました。このような自分を高める経験値が私の人生の大きな財産だと思っております。

私は入職したての頃は、先輩方のリハビリ業務の補助、雑務に追われる毎日で自分は成長できているのか不安になり、嫌気がさすことも多々ありました。ただそれは、自分が忙しさを理由にして勉強しようとしなかったからだと思います。少ない時間でもいかに学ぶか、また先輩方を捕まえてでも聞くことができるのか、何でも受け身の姿勢を取ってしまうと自分自身はマイナスへしか行きません。幸い、当院はドクターとの距離も近く、コミュニケーションが密に取れます。様々な経験が自分のキャリアとして一生残っていくと思います。

当院で膝、スポーツ障害を極めたい方にはすごく良い環境だと思います。入職したい方、ぜひ私たちと一緒に上を目指して頑張りましょう。

理学療法士 原 崇 (H29年 卒業)

当院では、膝関節の障害、スポーツ障害で困っている患者さんを中心にリハビリテーションを行わせていただいています。分野としては狭く深いと思いますが、この分野に関しては人一倍自信を持ってリハビリテーションを行うことができるようになると思います。1年目の時には、先輩方からご指導いただき勉強の事だけでなく、医療人としての志や社会人としての心構えを学びました。2年目になった今でも、たくさんご指導いただいています。

私は学生時代に当院で実習を行わせていただきました。全国の学会で発表している先輩、海外研修を行っている先輩、プロスポーツ選手のコンディショニングを行っている先輩を間近で見て、私もこのような理学療法士になりたいと思い就職しました。

今日では朝から夜まで業務はもちろん勉強や研究、スポーツ活動を行っています。勉強、研究に関しては、プライベートの時間を割いて行っていかなければなりません。しかし、それは患者さんのリハビリテーションを行っていくためには当たり前の事だと感じます。膝関節障害、スポーツ障害の分野を極めたい方、一緒にプロフェッショナルな理学療法士を目指して頑張りましょう。